

平成 21 年 6 月 16 日
デトロイト総領事館

在米の補習校における盗難事件の発生～安全対策の再確認を～

12日、在米の補習授業校において、開校日の昼休み中に賊が侵入した、盗難事件が発生しました。学校内に潜伏中の賊を発見し、警察に引き渡したところ、賊は犯行を認め被害品は全て還付されました。各校におかれましては安全対策の再点検を御願いたします。

1. 当該補習授業校の概要

校長以下教員・講師・事務員等 14 人、生徒数幼稚部から高等部まで約 150 人在学、教育委員会併設の高校を借り上げ。授業は基本的に毎週土曜日に開校しているが、現地校の夏休み期間中は金曜日及び土曜日の連日授業となる。

土曜日の授業日には出入口を 1 か所に絞り、他の出入口は全て施錠しているが、金曜日は同居する教育委員会があり、人の出入りが多いことから正面玄関は開放されている。

2. 盗難事件の発生

(1) 発生日時

6月12日 午後 1 時20分頃 (昼休み中)

(2) 発生場所

在米の補習授業校教室内

(3) 被害

(イ) 人的被害 なし

(ロ) 物的被害 教師所有の財布 2 個 (現金、クレジットカード等在中)、携帯電話 1 台、(但し、還付済み)

(4) 被害状況

12日昼休み中、留守中の教室を出入りする不審なアフリカ系の男性がいると生徒から教師に連絡があった。教室を確認すると 2 か所の教室から、教師の財布 2 個、携帯電話 1 台がなくなっていることが判明した。校長は、賊はまだ学校内に潜んでいるかもしれないと校内を探したところ、2階に潜んでいた男を見つけて警察に通報した。

パトカー内で警察官の取り調べに対し財布などを盗んだことを認め、「一旦学校を出て現金を抜き取り財布は捨てた。」「2回目に学校に入ったときに見つかった。」「学校へは教育委員会の玄関から入った。」と供述し、犯人の案内で盗まれた財布携帯電話等は見つかった。幸いけが人はなく、被害品は全て還付された。

授業後に臨時の全校集会を開き、校長自ら事件の概要を説明した。

3. 問題点、反省点

(1) 捕まった犯人の男を見た現地校の校長は、「この男には、この辺の学校が沢山被害にあっていて、写真付きの手配書がまわっている。」との言動があった。しかし、このような重要な手配が補習校には何ら通知されていなかった。

(2) 補習校の安全対策は土曜日の授業日を対象に策定されており、金曜日の正面出入口対策がなされていなかった。

(3) 校長は、「『いつも教師には安全第一、銃器を持っていることを考えて、犯人を捕まえようとしなくて、警察に通報して犯人を捕まえてもらうこと』を指示してきたが、当日は自分自身が冷静な行動をとれずに犯人が手には銃器を持っていない事は確認したがポケットに何

があるかわからないまま犯人を単独で捕まえてしまった。まず、校長として児童生徒の安全確保を最優先すべきだった。」と自らの行動を反省している。

(4) 不審人物を見かけた教師もいたが、当日午前中に当該教師の教室に現地校教師が忘れ物を取りに来たことから、当該不審者についても「現地校関係者が何かを取りに来た」と思ってしまい声かけをしなかった。

(5) 職員室が狭く教職員の荷物を置く場所がないため、教師は荷物を教室に置いていた。

(6) 昼休み中は、ほとんどの教職員が児童の外遊びの安全確認のために校庭に出ていて建物内の警戒が手薄になっていた。

4. 事件の影響

(1) 翌日土曜日の授業の際、家庭との連絡帳に「子供が、学校へ行くのが怖いと言いました。」と言った趣旨の連絡があった。PTSD症状が現れているようである。

(2) 一部から。「校長が犯人を羽交い締めにして捕まえたらしい。」との誤った噂が流れている。

5. 補習校の対応

(1) 誤った噂が広がらないように、早期に校長名で保護者に対して、事件の概要と補習校の対応について連絡した。

(2) 臨時運営委員会を開催し、謝金警備員の配置も含めて今後の対策を検討する。

(3) 地元教育委員会及び警察に対して学校運営に関わる安全情報は補習授業校に対しても通知するように申し入れる。

(4) 現地校から教室内の鍵付きロッカーの割り当てを受けるとともに、校長室内のロッカーを教職員の貴重品ロッカーに割り当てた。

6. 領事館からの連絡事項

今回は幸いにもけが人はなく被害品も無事戻ってきましたが、結果オーライ的な感があります。現地校や教育委員会関係者の出入りのある学校につきましては不審者対策は難しい課題であることは事実ですが、この事例を他山の石として今一度各校の安全対策の再検討をしてください。

以上